

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	1	越後を本拠に、関東・信濃・北陸へ進出した「義の武将」は誰か？	戦国時代・越後国（新潟県）・戦国大名	上杉謙信（うえずぎけんしん）は1530年、越後守護代（えちごしゅごだい）長尾氏の家に生まれ、春日山城（かすがやまじょう）を本拠に越後国（新潟県）を統一した戦国大名です。もとは長尾景虎（ながおかげとら）といい、上杉憲政（うえずぎのりまさ）から上杉姓と関東管領（かんとくあんれい）職を継ぎました。信濃（しなの）では武田信玄（たけだしんげん）と川中島（かわなかじま）で争い、関東では北条氏、北陸では織田信長勢力と対立しました。	越後・春日山城・関東管領・武田信玄との川中島の戦いが結びつければ、正解は上杉謙信です。「義の武将」「毘沙門天（びしゃもんてん）信仰」「敵に塩を送る」の逸話も謙信を選ぶ決定語句になります。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後の戦国大名で、関東管領を継ぎ、武田信玄や北条氏と戦った。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：甲斐（かい）の戦国大名で、川中島の戦いにおける謙信の最大の宿敵。上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：関東管領で、長尾景虎に上杉姓と関東管領職を譲った。	武田信玄は甲斐国（山梨県）の大名で、川中島では謙信の相手です。北条氏康（ほうじょううじやす）は相模（さがみ）小田原の後北条氏で、謙信の関東進出を阻んだ人物です。織田信長は尾張（おわり）出身で、謙信晩年に北陸方面で対立した相手です。いずれも謙信本人ではなく、地域・本拠・戦いで区別します。	越後国（新潟県）、春日山城、川中島の戦い、武田信玄、北条氏康、小田原城、関東管領、毘沙門天信仰、手取川（てとりがわ）の戦い、御館の乱（おたてのらん）
上杉謙信	2	上杉姓を継ぐ前の越後の武将名は何か？	戦国時代・越後国（新潟県）・人物名の変遷	長尾景虎（ながおかげとら）は、のちの上杉謙信の初名です。越後守護代の長尾氏に生まれ、兄・長尾晴景（ながおはるかげ）に代わって越後支配を固めました。その後、関東管領の上杉憲政を保護し、名門上杉氏の家名と関東管領職を受け継ぎます。さらに出家して謙信と号したため、試験では「長尾景虎＝上杉謙信の前名」「上杉憲政から上杉姓を継承」という名前の流れが重要です。	「長尾景虎」が出たら、上杉謙信の上杉姓継承前の名前と判断します。長尾氏出身、越後守護代、上杉憲政から上杉姓を譲られる、という語句があれば正解軸は長尾景虎です。	長尾景虎・上杉謙信（ながおかげとら・うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：長尾氏出身で、のち上杉姓を継ぎ謙信と号した。長尾晴景（ながおはるかげ、1509-1553、享年45）：景虎の兄で、越後国内の統治をめぐり景虎に家督を譲った。上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：関東管領で、景虎に上杉姓と関東管領職を譲った。	上杉景勝（うえずぎかげかつ）は謙信の養子で、謙信死後に後継者となった人物です。上杉景虎（うえずぎかげとら）は北条氏出身の謙信の養子で、御館の乱で景勝と争いました。長尾政景（ながおまさかげ）は景勝の父で、謙信本人の初名ではありません。名前が似るため「長尾景虎＝謙信本人」「上杉景虎＝養子」と区別します。	長尾氏、越後守護代、上杉姓継承、関東管領、出家と法名、上杉景勝、上杉景虎、御館の乱、戦国大名の改名
上杉謙信	3	日本海側の交通と交易を背景に、上杉謙信の本拠となった国はどこか？	戦国時代・越後国（新潟県）・地域史	越後国（えちごのくに）は現在の新潟県にあたり、上杉謙信の本拠地です。日本海に面し、港や街道を通じた交通・交易の利点を持ち、米・青芦（あおそ）などの産物も経済力の背景になりました。謙信は春日山城を拠点に越後を統一し、そこから信濃の川中島、関東の小田原方面、北陸の能登（のと）・加賀（かが）方面へ出兵しました。越後を押さえると、謙信の軍事行動の地図が繋がります。	上杉謙信の本拠地を問う場合、正解は越後国です。現在の新潟県、春日山城、日本海側、川中島・関東・北陸へ動く出発点、という語句が判断軸になります。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後国を本拠に周辺諸国へ進出した戦国大名。長尾為景（ながおためかげ、生年未詳-1536、生年不明のため享年不詳）：謙信の父で、越後守護上杉氏を圧迫して長尾氏の実力を高めた。直江兼続（なおえかねつぐ、1560-1620、満60歳）：謙信後の上杉景勝に仕え、米沢藩上杉家へつながる重要家臣。	甲斐国（かいのくに）は武田信玄の本拠で現在の山梨県です。信濃国（しなののくに）は現在の長野県で、川中島の戦いの舞台です。相模国（さがみのくに）は後北条氏の小田原城がある現在の神奈川県西部です。越後は謙信の出発点、信濃は戦場、甲斐は敵の本拠、相模は北条氏の本拠として整理します。	越後国、新潟県、春日山城、直江津（なおえつ）、日本海交易、青芦、信濃国、甲斐国、相模国、川中島の戦い、北陸道
上杉謙信	4	越後支配の中心となった上杉謙信の居城はどこか？	戦国時代・新潟県上越市・城郭史	春日山城（かすがやまじょう）は、新潟県上越市にある山城で、上杉謙信の居城として知られます。平地の天守閣を見せる近世城郭ではなく、山の地形を利用した戦国期の山城です。謙信はここを拠点に越後を治め、信濃の武田信玄、関東の北条氏、北陸の織田勢力と向き合いました。現在は国指定史跡で、上杉謙信ゆかりの観光地としても重要です。試験では「謙信の本拠＝春日山城」と地名で押さえます。	上杉謙信の居城・越後・新潟県上越市・山城という語句がそろえば、正解は春日山城です。近世の天守閣型城郭ではなく、戦国大名の軍事拠点としての山城である点も判断材料です。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：春日山城を本拠に越後を統一し、広域に出兵した。上杉景勝（うえずぎかげかつ、1556-1623、享年69）：謙信の養子で、御館の乱後に上杉家を継ぎ、のち会津・米沢へ移った。直江兼続（なおえかねつぐ、1560-1620、満60歳）：景勝の重臣で、上杉家の政治・軍事を支えた人物。	小田原城（おだわらじょう）は後北条氏の本拠で神奈川県小田原市にあります。躰躰ヶ崎館（つつじがさきやかた）は武田信玄の本拠で山梨県甲府市にあります。安土城（あづちじょう）は織田信長が築いた近江（滋賀県）の城です。春日山城は上杉謙信、躰躰ヶ崎館は武田信玄、小田原城は後北条氏、安土城は織田信長で対応させます。	春日山城跡、上越市、戦国山城、越後国、上杉謙信公祭、林泉寺（りんせんじ）、小田原城、躰躰ヶ崎館、安土城、城郭史

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	5	関東管領の名門で、長尾景虎が継承した家名は何か？	室町時代から戦国時代・関東と越後・武家名門	上杉氏（うえずぎし）は、室町幕府の関東支配と深く関わった武家の名門です。関東では鎌倉公方（かまくらくぼう）を補佐する関東管領を務めましたが、戦国時代には後北条氏の圧迫を受け、関東管領の上杉憲政が越後の長尾景虎を頼ります。景虎は憲政から上杉姓と関東管領職を譲られ、上杉謙信となりました。つまり上杉氏は、謙信が関東へ出兵する政治的な名分を与えた家名です。	長尾景虎が継承した名門家名を問われたら、正解は上杉氏です。関東管領、上杉憲政、長尾景虎への家名譲渡、謙信の関東出兵の名分という語句が判断軸です。	上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：関東管領で、北条氏に圧迫され長尾景虎へ上杉姓を譲った。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：長尾氏出身だが、上杉氏を継ぎ関東管領として行動した。足利成氏（あしかがしげうじ、1438-1497、享年60）：古河公方（こがくぼう）となり、関東の公方・管領対立の流れを理解する上で重要。	長尾氏は謙信の出身氏族で、上杉姓を継ぐ前の家です。武田氏は甲斐国の戦国大名家で、川中島における敵方です。後北条氏は相模小田原を本拠とし、関東で上杉氏を圧迫した勢力です。足利氏は将軍家・鎌倉公方の家柄で、上杉氏はそれを補佐する関東管領の家として整理します。	上杉氏、関東管領、鎌倉公方、古河公方、山内上杉氏（やまののうちうえずぎし）、扇谷上杉氏（おうぎがやつうえずぎし）、長尾氏、後北条氏、関東出兵、室町幕府の地方支配
上杉謙信	6	長尾景虎に上杉姓と関東管領職を譲った人物は誰か？	戦国時代・関東と越後・関東管領	上杉憲政（うえずぎのりまさ）は、関東管領（かんとうかんれい）を務めた山内上杉氏（やまののうちうえずぎし）の人物です。戦国時代、相模（さがみ）の後北条氏が関東で勢力を拡大すると、憲政は居城の平井城（ひらいじょう）を失い、越後の長尾景虎（ながおかげとら）を頼りました。景虎は憲政を保護し、上杉姓と関東管領職を継承して上杉謙信となります。これにより謙信の関東出兵は、単なる侵攻ではなく「関東秩序回復」という名分を持つ行動になりました。	上杉姓・関東管領職を長尾景虎へ譲った人物を問われたら、正解は上杉憲政です。「後北条氏に追われる」「越後へ逃れる」「長尾景虎を頼る」「上杉謙信誕生のきっかけ」が決定語句です。	上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：関東管領で、長尾景虎に上杉姓と職を譲った。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：憲政から名跡を継ぎ、関東出兵の政治的な名分を得た。北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：小田原の後北条氏当主で、憲政を圧迫した関東の強敵。	上杉景勝（うえずぎかげかつ）は謙信の養子で、謙信死後に家督を継いだ人物です。上杉景虎（うえずぎかげとら）は北条氏出身の謙信の養子で、御館の乱で景勝と争いました。長尾為景（ながおためかげ）は謙信の父で、越後で長尾氏の力を高めた人物です。上杉姓を譲った人物は上杉憲政と限定して覚えます。	山内上杉氏、関東管領、平井城、後北条氏、長尾景虎、上杉謙信、関東出兵、小田原城攻め、室町幕府の関東支配
上杉謙信	7	鎌倉公方を補佐し、謙信の関東出兵の名分になった役職は何か？	室町時代から戦国時代・関東・政治制度	関東管領（かんとうかんれい）は、室町幕府の関東支配において鎌倉公方（かまくらくぼう）を補佐する役職です。もとは上杉氏が世襲的に務めた要職でしたが、戦国時代には関東の秩序が崩れ、後北条氏が台頭しました。関東管領の上杉憲政は北条氏康に圧迫され、越後の長尾景虎を頼ります。景虎は上杉姓と関東管領職を継ぎ、上杉謙信として関東へ出兵しました。試験では「役職名」と「政治的な名分」を結びつけることが重要です。	鎌倉公方を補佐する役職、上杉氏が務める、長尾景虎が継承、関東出兵の名分という語句があれば、正解は関東管領です。単なる官位ではなく、室町幕府の関東統治に関わる役職です。	上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：関東管領として長尾景虎に職を譲った。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：関東管領職を継ぎ、関東出兵を行った。足利成氏（あしかがしげうじ、1438-1497、享年60）：鎌倉公方から古河公方となり、関東の政治対立を理解する手がかりになる人物。	鎌倉公方は関東に置かれた足利氏の長で、補佐役ではありません。執権（しっけん）は鎌倉幕府で北条氏が務めた役職です。管領（かんれい）は室町幕府で将軍を補佐した中央の役職です。関東管領は関東で鎌倉公方を補佐する役職なので、中央の管領や鎌倉幕府の執権と区別します。	関東管領、鎌倉公方、古河公方、上杉氏、山内上杉氏、後北条氏、室町幕府、鎌倉府、関東出兵、政治的な名分
上杉謙信	8	関東進出した謙信が後北条氏の本拠を攻めた戦いは何か？	戦国時代・神奈川・小田原市・関東出兵	小田原城攻め（おだわらじょうぜめ）は、上杉謙信が関東管領として関東へ出兵し、後北条氏の本拠である小田原城（神奈川県小田原市）を攻めた出来事です。1561年、謙信は関東の諸将を従えて小田原を包囲しましたが、堅固な城を落とすことはできませんでした。小田原城は後北条氏の象徴であり、のち1590年には豊臣秀吉の小田原攻めで開城し、全国統一へつながります。謙信の小田原攻めと秀吉の小田原攻めは、時代と結果を分けて覚える必要があります。	上杉謙信・関東管領・1561年・後北条氏の本拠・小田原城を攻める、という語句がそろえば正解は小田原城攻めです。秀吉の1590年の小田原攻めとは別で、謙信の場合は落城させていません。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：関東管領として後北条氏の本拠小田原城を攻めた。北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：後北条氏の当主で、小田原城を守り謙信に対抗した。豊臣秀吉（とよとみひでよし、1537-1598、享年62）：1590年に小田原征伐を行い、後北条氏を降伏させ全国統一を進めた。	川中島の戦いは上杉謙信と武田信玄が信濃国で争った戦いです。手取川の戦いは上杉軍と織田軍が北陸で戦ったとされる戦いです。山崎の戦いは1582年、羽柴秀吉が明智光秀を破った戦いです。小田原城攻めは後北条氏の本拠をめぐる関東の戦いとして整理します。	小田原城、後北条氏、北条氏康、関東管領、関東出兵、1561年、豊臣秀吉の小田原征伐、1590年、全国統一、神奈川県の城郭史

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	9	相模小田原を本拠に、謙信の関東進出を阻んだ後北条氏の当主は誰か？	戦国時代・相模国（神奈川県）・後北条氏	北条氏康（ほうじょううじやす）は、相模国（さがみのくに）小田原を本拠とした後北条氏の戦国大名です。父・北条氏綱（ほうじょううじつな）の後を継ぎ、関東で勢力を拡大しました。関東管領の上杉憲政を圧迫し、越後の長尾景虎、のちの上杉謙信が関東へ出兵する原因を作りました。1561年には謙信の小田原城攻めを受けますが、小田原城を守り抜きます。謙信を理解するには、甲斐の武田信玄だけでなく、関東の北条氏康も押さえる必要があります。	相模小田原・後北条氏・上杉憲政を圧迫・謙信の関東出兵の相手・1561年小田原城攻めという語句が出たら、正解は北条氏康です。武田信玄は信濃方面の相手、北条氏康は関東方面の相手です。	北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：後北条氏当主で、謙信の関東進出を阻んだ。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：関東管領として小田原城を攻め、氏康と対立した。上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：氏康に圧迫され、越後の長尾景虎を頼った関東管領。	北条早雲（ほうじょうそう'un）は後北条氏の祖で、伊豆・相模進出の人物です。北条氏政（ほうじょうじまさ）は氏康の子で、豊臣秀吉の小田原征伐時の当主です。武田信玄は甲斐国の大名で、謙信とは川中島で争いました。氏康は謙信と同時代に小田原を守った人物として区別します。	後北条氏、小田原城、相模国、関東出兵、上杉憲政、北条早雲、北条氏政、豊臣秀吉の小田原征伐、関東戦国史
上杉謙信	10	信濃国で上杉謙信と武田信玄が複数回争った代表的合戦は何か？	戦国時代・信濃国（長野県）・戦国合戦	川中島の戦い（かわなかじまのたたかい）は、上杉謙信と武田信玄が信濃国北部、現在の長野県長野市周辺で争った戦いです。1553年から1564年まで複数回行われ、特に1561年の第四次川中島の戦いが有名です。信玄は信濃へ勢力を伸ばし、謙信は越後から南下してこれを阻止しようとした。善光寺（ぜんこうじ）周辺の支配や北信濃の豪族をめぐる争いが背景です。「越後の謙信」と「甲斐の信玄」が信濃でぶつかる、と地図で覚えると定着します。	上杉謙信・武田信玄・信濃国・長野県・1553～1564年・第四次が有名という語句があれば、正解は川中島の戦いです。一騎討ち伝説も有名ですが、史実としては北信濃支配をめぐる合戦として判断します。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後から信濃へ出兵し、武田信玄と争った。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：甲斐から信濃へ進出し、謙信と対立した。村上義清（むらかみよしきよ、1501-1573、享年73）：信濃の武将で、武田氏に敗れて謙信を頼ったことが対立の背景になった。	桶狭間の戦いは1560年、織田信長が今川義元を破った戦いです。長篠の戦いは1575年、織田・徳川連合軍が武田勝頼を破った戦いです。手取川の戦いは1577年、上杉軍と織田軍が北陸で戦ったとされます。川中島は謙信と信玄、信濃国、長野県で結びつけます。	川中島古戦場、長野県、信濃国、善光寺、第四次川中島の戦い、武田信玄、甲斐国、村上義清、戦国合戦、上杉謙信の越山
上杉謙信	11	1561年、謙信と信玄の激戦として最も有名な川中島の戦いは第何次か？	戦国時代・信濃国（長野県）・戦国合戦	第四次川中島の戦い（だいよじかわなかじまのたたかい）は、1561年、上杉謙信（うえずぎけんしん）と武田信玄（たけだしんげん）が信濃国（しなののくに）川中島周辺で激突した合戦です。川中島の戦いは1553年から1564年まで複数回ありましたが、最も有名なのが第四次です。妻女山（さいじょさん）・八幡原（はちまんばら）をめぐる布陣、謙信が信玄に斬りかかったという一騎討ち伝説で知られます。ただし一騎討ちは軍記物的な伝承として慎重に扱います。	1561年、八幡原、妻女山、謙信と信玄の一騎討ち伝説、川中島の中で最も有名、という語句が出たら、正解は第四次川中島の戦いです。川中島全体では複数回ありますが、試験では第四次を代表例として押さえます。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後から信濃へ出兵し、第四次川中島で信玄と激戦を行った。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：甲斐の戦国大名で、信濃支配を進め謙信と対立した。山本勘助（やまもとかんすけ、生年不詳-1561、享年不詳）：武田家軍師として伝わり、第四次川中島で討死したとされる人物。	第一次川中島の戦いは1553年で、両軍の接触の始まりにあたりません。第二次・第三次はにらみ合いや和睦を含む展開で、第四次ほど大規模な激戦としては知られません。長篠の戦いは1575年、武田勝頼と織田・徳川連合軍の戦いです。第四次川中島は1561年、謙信対信玄で区別します。	第四次川中島の戦い、1561年、八幡原、妻女山、海津城（かいづじょう）、啄木鳥戦法（きつつきせんぼう）、一騎討ち伝説、甲陽軍鑑（こうようぐんかん）、長野県長野市
上杉謙信	12	甲斐を本拠に、上杉謙信と信濃で争った戦国大名は誰か？	戦国時代・甲斐国（山梨県）・武田氏	武田信玄（たけだしんげん）は、甲斐国（かいのくに、山梨県）を本拠とした戦国大名です。父・武田信虎（たけだのぶとら）を追放して家督を継ぎ、信濃国へ進出しました。その過程で北信濃の武将が上杉謙信を頼ったため、謙信と信玄は川中島で複数回対立します。信玄は治水事業や分国法『甲州法度之次第（こうしゅうはつどのしだい）』でも知られ、戦国大名の領国経営を考えるうえでも重要です。	甲斐国、山梨県、躑躅ヶ崎館（つづじがさきやかた）、信濃進出、川中島で上杉謙信と対立、という語句があれば、正解は武田信玄です。謙信の相手として最頻出級の人物です。	武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：甲斐の戦国大名で、信濃進出により謙信と川中島で争った。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後の戦国大名で、信濃をめぐり信玄と対立した。武田勝頼（たけだかつより、1546-1582、北享年37）：信玄の子で、長篠の戦いで織田・徳川連合軍に敗れ、武田氏滅亡へ向かった。	北条氏康は相模小田原を本拠とした後北条氏で、謙信の関東方面の相手です。今川義元は駿河（するが）・遠江（ととうみ）を支配し、桶狭間で織田信長に敗れた人物です。織田信長は尾張出身で、謙信晩年に北陸で対立します。川中島なら武田信玄、小田原なら北条氏康、桶狭間なら今川義元です。	武田信玄、甲斐国、山梨県、躑躅ヶ崎館、川中島の戦い、甲州法度之次第、信玄堤（しんげんづつみ）、風林火山、長篠の戦い、武田勝頼

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	13	武田信玄の本拠で、上杉謙信の越後と対比して覚える国はどこか？	戦国時代・甲斐国（山梨県）・地域史	甲斐国（かいのくに）は現在の山梨県にあたり、武田信玄の本拠地です。山に囲まれた内陸国で、信玄は躰躰ヶ崎館（つつじがさきやかた）を拠点に領国を支配し、信濃国（長野県）へ勢力を広げました。その信濃進出が、越後国（新潟県）の上杉謙信との川中島の戦いにつながります。地図で見ると、越後の謙信が南下し、甲斐の信玄が北上して、信濃で衝突する構図です。	武田信玄の本拠、現在の山梨県、躰躰ヶ崎館、信濃へ北上、上杉謙信の越後と対比、という語句があれば、正解は甲斐国です。川中島を理解する地理の基本です。	武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：甲斐国を本拠に信濃へ進出した戦国大名。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後国を本拠に信濃へ南下し、信玄と対立した。武田信虎（たけだのぶとら、1494-1574、享年81）：信玄の父で、甲斐統一を進めたが信玄に追放された。	越後国は上杉謙信の本拠で現在の新潟県です。信濃国は川中島の戦いの舞台で現在の長野県です。相模国は後北条氏の本拠小田原がある地域です。甲斐国は武田信玄、越後国は上杉謙信、信濃国は両者の衝突地点として整理します。	甲斐国、山梨県、武田信玄、躰躰ヶ崎館、甲府、信濃国、越後国、川中島の戦い、信玄堤、甲州金（こうしゅうきん）
上杉謙信	14	越後の謙信と甲斐の信玄が衝突した、現在の長野県にあたる国はどこか？	戦国時代・信濃国（長野県）・地域史	信濃国（しなののくに）は現在の長野県にあたり、上杉謙信と武田信玄が争った川中島の戦いの舞台です。信玄は甲斐国から信濃へ勢力を伸ばし、村上義清（むらかみよしきよ）ら信濃の武将を圧迫しました。彼らが越後の謙信を頼ったことで、謙信は北信濃へ出兵します。善光寺（ぜんこうじ）周辺や川中島は交通・信仰・軍事の要地であり、戦国期の領土争いが観光地史にもつながります。	現在の長野県、川中島の戦いの舞台、越後の謙信と甲斐の信玄が衝突、善光寺周辺、という語句があれば、正解は信濃国です。戦国地理では「甲斐から北上、越後から南下、信濃で激突」と覚えます。	村上義清（むらかみよしきよ、1501-1573、享年73）：信濃の武将で、武田信玄に敗れて上杉謙信を頼った。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越後から信濃へ出兵し、川中島で信玄と戦った。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：甲斐から信濃へ進出し、謙信と対立した。	甲斐国は武田信玄の本拠で現在の山梨県です。越後国は上杉謙信の本拠で現在の新潟県です。越中国（えっちゅうのくに）は現在の富山県で、謙信の北陸進出に関係します。信濃国は長野県、川中島、善光寺で覚えます。	信濃国、長野県、川中島、善光寺、村上義清、海津城、妻女山、八幡原、甲斐国、越後国、戦国地理
上杉謙信	15	川中島周辺にある、信玄・謙信の争奪とも関わる長野の古刹はどこか？	戦国時代・長野県長野市・寺社史	善光寺（ぜんこうじ）は、長野県長野市にある古刹で、川中島の戦いの舞台に近い重要寺院です。宗派を問わず人々の信仰を集めた寺として知られ、本尊は一光三尊阿弥陀如来（いっこうさんぞんあみだにょらい）とされます。戦国時代、武田信玄と上杉謙信の対立の中で、善光寺如来や門前町の支配も政治・軍事上の意味を持ちました。観光地としての善光寺と、川中島の戦いを結びつけて覚えると試験で強いです。	長野市、川中島近く、宗派を問わない信仰、一光三尊阿弥陀如来、信玄・謙信の争奪と関係、という語句があれば、正解は善光寺です。川中島の地理と寺社史を結ぶキーワードです。	武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：善光寺如来を甲斐へ移したとされ、甲斐善光寺との関係が深い。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：川中島周辺の支配をめぐり、善光寺地域にも関係した。村上義清（むらかみよしきよ、1501-1573、享年73）：北信濃の武将で、武田氏に敗れて謙信を頼った。	甲斐善光寺（かいぜんこうじ）は武田信玄が甲府に建立した寺で、長野の善光寺と関連しますが本寺とは区別します。戸隠神社（とがくしんじや）は長野県の山岳信仰・修験道と関わる神社です。諏訪大社（すわたいしゃ）は信濃国一宮で、武田氏の信仰とも関係します。川中島近くの古刹なら善光寺です。	善光寺、長野県長野市、一光三尊阿弥陀如来、川中島古戦場、甲斐善光寺、戸隠神社、諏訪大社、門前町、戦国期の寺社保護、信濃観光史
上杉謙信	16	上杉謙信が深く信仰し、自らをその化身と意識したとされる武神は何か？	戦国時代・越後国（新潟県）・信仰史	毘沙門天（びしゃもんてん）は、仏教の四天王の一つで北方を守る武神です。上杉謙信（うえずぎけんしん）は毘沙門天を深く信仰し、軍旗に「毘（び）」の一字を掲げたことで知られます。謙信は単なる領土拡大の戦国大名ではなく、関東管領としての名分や寺社信仰を重んじた人物像で語られることが多いです。越後の春日山城、林泉寺（りんせんじ）、出家して謙信と号したことと合わせると、宗教性の強い戦国武将として記憶できます。	上杉謙信・武神・「毘」の軍旗・四天王・北方守護・信仰という語句が出たら、正解は毘沙門天です。「義の武将」という後世の人物像とも結びつけて判断します。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：毘沙門天を信仰し、「毘」の旗を用いたとされる越後の戦国大名。天海（てんかい、1536?-1643、満106歳前後）：江戸初期の僧で、徳川家康の神格化に関わる宗教政治の比較対象。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：謙信の宿敵で、諏訪信仰や甲斐善光寺など寺社政策とも関係する。	不動明王（ふどうみょうおう）は密教で重視される明王で、修験道や寺院信仰と結びつきます。八幡神（はちまんしん）は源氏や武家の守護神として鶴岡八幡宮などで重要です。天照大神（あまてらすおおみかみ）は伊勢神宮の祭神で皇室の祖神とされます。謙信の軍旗「毘」と結びつくのは毘沙門天です。	毘沙門天、四天王、軍旗「毘」、春日山城、林泉寺、上杉謙信の信仰、武家と宗教、八幡信仰、不動明王、伊勢神宮

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	17	長尾景虎が出家後に称した、試験で最も知られる名は何か？	戦国時代・越後国（新潟県）・人物名の変遷	上杉謙信（うえずぎけんしん）の名は、長尾景虎（ながおかげとら）が上杉姓を継ぎ、さらに出家した後に広く知られる呼称です。景虎は越後守護代長尾氏の出身で、関東管領の上杉憲政（うえずぎのりまさ）から上杉姓と関東管領職を受け継ぎました。その後、仏門に入り「謙信」と号します。戦国武將は幼名・通称・官途名・法名が変わるため、試験では「長尾景虎＝上杉謙信」「出家後の名＝謙信」という対応を押さえることが重要です。	長尾景虎、上杉姓継承、出家後の名、越後の戦国大名という語句があれば、正解は上杉謙信です。名前の変化を問う問題では、長尾景虎と上杉謙信を同一人物として結びつけます。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：長尾景虎が上杉姓を継ぎ、出家後に謙信と号した人物。上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：景虎に上杉姓と関東管領職を譲った。長尾晴景（ながおはるかかげ、1509-1553、享年45）：景虎の兄で、越後の家督を景虎に譲った。	上杉景勝（うえずぎかげかつ）は謙信の養子で、御館の乱後に上杉家を継いだ人物です。上杉景虎（うえずぎかげとら）は北条氏出身の謙信の養子で、長尾景虎とは別人です。長尾為景（ながおためかげ）は謙信の父です。名前が似るため「長尾景虎＝謙信本人」「上杉景虎＝養子」と分けます。	長尾景虎、上杉謙信、出家、法名、上杉姓継承、関東管領、上杉景勝、上杉景虎、御館の乱、戦国武將の改名
上杉謙信	18	後世に、私利より名分を重んじた武將像として語られる上杉謙信の呼び名は何か？	戦国時代・越後国（新潟県）・人物評価	「義の武將（ぎのぶしょう）」は、上杉謙信を説明するときによく使われる人物像です。謙信は関東管領職を継いで関東出兵の名分を掲げ、武田信玄との対立でも「敵に塩を送る」という逸話で語られます。ただし、これは後世に形成された理想化された評価も含み、実際には越後支配、関東進出、北陸攻略などを進めた現実的な戦国大名でもありました。試験では「謙信＝義」「信玄＝甲斐・川中島」と人物イメージを整理するのに役立ちます。	上杉謙信、名分、関東管領、敵に塩を送る、毘沙門天信仰、後世の評価という語句が出たら、正解は義の武將です。ただし、史実そのものというより人物像・評価語として押さえます。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：名分や信仰を重んじた人物像から「義の武將」と呼ばれる。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：謙信の宿敵で、塩の逸話や川中島で比較される。北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：関東で謙信と対立し、謙信の関東管領としての名分を際立たせる相手。	「海道一の弓取り」は今川義元（いまがわよしもと）などに関わる呼称です。「第六天魔王」は織田信長が自称したとされる異名です。「独眼竜」は伊達政宗（だてまさむね）の異名です。上杉謙信を表す評価語としては、義の武將、越後の龍（えちごのりゅう）を覚えます。	義の武將、越後の龍、甲斐の虎、敵に塩を送る、関東管領、毘沙門天信仰、戦国武將の異名、人物評価と史実の区別
上杉謙信	19	武田領の塩不足に対し、謙信の義を示す逸話として知られる言葉は何か？	戦国時代・越後と甲斐・逸話と人物評価	「敵に塩を送る（てきにしおをおくる）」は、上杉謙信の義を示す逸話として有名です。今川氏真（いまがわうじざね）らが武田領への塩の流通を止めた際、謙信は武田信玄の領民を苦しめるような経済封鎖には加わらず、塩の流通を認めたと語られます。史実性や細部には議論がありますが、試験では「謙信＝義の武將」を象徴する故事成語として重要です。塩は内陸の甲斐国にとって生命線で、日本海側の越後との地理関係も思い出せます。	上杉謙信、武田信玄、塩不足、甲斐国、義の武將、故事成語という語句があれば、正解は敵に塩を送るです。意味は「敵が困っているときでも、苦境につけこまず助けること」です。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：武田領への塩流通を止めなかった逸話で「義の武將」とされる。武田信玄（たけだしんげん、1521-1573、享年53）：内陸の甲斐を本拠とし、塩不足の逸話で謙信と対比される。今川氏真（いまがわうじざね、1538-1615、享年78）：今川義元の子で、武田領への塩止めに関わったとされる。	「鳴かぬなら殺してしまえほととぎす」は織田信長の気質を表す後世の句です。「一夜城」は豊臣秀吉の墨俣一夜城や小田原攻めの石垣山城と結びつきます。「風林火山」は武田信玄の軍旗で、『孫子』に由来します。塩の逸話は謙信と信玄の関係で覚えます。	敵に塩を送る、塩止め、甲斐国、越後国、日本海交易、義の武將、故事成語、武田信玄、今川氏真、戦国大名の経済戦
上杉謙信	20	上杉謙信が越後から関東へ出兵することを指す言葉は何か？	戦国時代・越後と関東・軍事行動	越山（えつざん）は、上杉謙信が越後国（新潟県）から三国峠（みくにとうげ）などを越えて関東へ出兵することを指す言葉です。謙信は上杉憲政（うえずぎのりまさ）から関東管領職を継いだため、関東出兵には後北条氏に対抗し、関東の秩序を回復するという名分がありました。ただし、実際には関東諸將の離反や小田原城の堅固さに悩まされ、長期的な支配は難航しました。越後から山を越えて関東へ向かう地理感覚で覚えると定着します。	越後の上杉謙信、関東管領、関東出兵、三国峠、小田原城攻め、という語句が出たら、正解は越山です。「越後から山を越える」と字面で覚えると判断しやすいです。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：越山を繰り返し、関東で後北条氏と対立した。上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：謙信に関東管領職を譲り、越山の政治的名分を与えた。北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：小田原を本拠とし、謙信の関東進出を阻んだ。	上洛（じょうらく）は京都へ向かうことで、謙信晩年の計画や織田信長との対立で使われます。東下（とうか）は東へ下る一般語で、特定の謙信用語としては越山ほど重要ではありません。西上（せいじょう）は西へ進むことを指します。謙信が越後から関東へ出る場合は越山と覚えます。	越山、三国峠、関東出兵、関東管領、小田原城攻め、後北条氏、上杉憲政、越後国、上野国（こうずけのくに）、関東戦国史

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	21	関東管領として謙信が後北条氏に対抗するため繰り返した軍事行動は何か？	戦国時代・関東地方・軍事と政治名分	関東出兵（かんとうしゅっぺい）は、上杉謙信（うえずぎけんしん）が関東管領（かんとうかんれい）として後北条氏（ごほうじょうし）に対抗するために行った軍事行動です。上杉憲政（うえずぎのりまさ）から上杉姓と関東管領職を受け継いだ謙信は、越後国（えちごのくに）から関東へ越山（えつざん）し、1561年には小田原城（おだわらじょう）を包囲しました。しかし北条氏康（ほうじょううじやす）の小田原城は堅く、関東諸将の離反もあり、恒常的支配は困難でした。	上杉謙信・関東管領・後北条氏への対抗・小田原城攻め・越山という語句があれば、正解は関東出兵です。単なる侵略ではなく、関東管領としての政治的名分を伴う軍事行動として判断します。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：関東管領として関東出兵を繰り返した。上杉憲政（うえずぎのりまさ、1523-1579、享年57）：謙信に関東管領職を譲り、出兵の名分を与えた。北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：小田原を本拠に謙信の関東進出を阻んだ。	川中島出兵は信濃国（しなののくに）で武田信玄と争う動きです。北陸進出は能登（のと）・加賀（かが）方面で織田信長勢力と対立する晩年の動きです。上洛（じょうらく）は京都へ向かうことです。関東管領と後北条氏が出たら関東出兵で整理します。	関東出兵、越山、関東管領、後北条氏、小田原城、上野国（こうずけのくに）、相模国（さがみのくに）、上杉憲政、北条氏康、室町幕府の関東支配
上杉謙信	22	氏康の子で、後北条氏を継ぎ、豊臣秀吉の小田原征伐期にも関わる人物は誰か？	戦国時代・相模国（神奈川県）・後北条氏	北条氏政（ほうじょううじまさ）は、北条氏康（ほうじょううじやす）の子で、相模国小田原を本拠とした後北条氏の当主です。上杉謙信や武田信玄との関東・甲信地域の政治戦を経て、後北条氏は関東で大勢力となりました。しかし1590年、豊臣秀吉（とよとみひでよし）の小田原征伐（おだわらせいばつ）で後北条氏は降伏し、氏政は切腹しました。謙信の関東出兵から秀吉の全国統一まで、後北条氏の流れをつなぐ人物です。	北条氏康の子、後北条氏当主、小田原城、1590年の豊臣秀吉による小田原征伐、切腹という語句があれば、正解は北条氏政です。謙信と直接対立した氏康の次世代として整理します。	北条氏政（ほうじょううじまさ、1538-1590、享年53）：氏康の子で、秀吉の小田原征伐時に後北条氏の中心人物となった。北条氏康（ほうじょううじやす、1515-1571、享年57）：氏政の父で、謙信の小田原城攻めを退けた。豊臣秀吉（とよとみひでよし、1537-1598、享年62）：1590年の小田原征伐で後北条氏を降伏させ、全国統一を進めた。	北条早雲（ほうじょうそう'un、1432?-1519、満87歳前後）は後北条氏の祖で、伊豆・相模進出の人物です。北条氏康は氏政の父で、謙信の関東進出を阻んだ当主です。北条時政（ほうじょうときまさ）は鎌倉幕府初期の執権北条氏で、戦国の後北条氏とは別系統です。後北条氏と鎌倉北条氏を混同しないことが重要です。	北条氏政、後北条氏、小田原城、小田原征伐、豊臣秀吉、北条氏康、北条早雲、関東戦国史、全国統一、鎌倉北条氏との違い
上杉謙信	23	晩年の謙信が織田信長との対立を背景に構想した、京都を目指す動きは何か？	戦国時代・越後から京都・上洛計画	上洛計画（じょうらくけいかく）は、晩年の上杉謙信が織田信長（おだのぶなが）との対立を背景に、京都方面へ進むことを構想したとされる動きです。謙信は北陸へ進出し、1577年には手取川（てとりがわ）の戦いで織田勢を破ったとされます。足利義昭（あしかがよしあき）や反信長勢力との関係もあり、謙信は信長包囲網の一角として期待されました。しかし1578年に春日山城で急死し、本格的な上洛は実現しませんでした。	晩年の上杉謙信、織田信長との対立、北陸進出、京都を目指す構想、1578年の急死という語句があれば、正解は上洛計画です。実際に京都を制圧したのではなく、計画・構想で終わった点が判断軸です。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：晩年に北陸へ進出し、上洛を構想したが急死した。織田信長（おだのぶなが、1534-1582、享年49）：畿内を支配し、謙信晩年の強敵となった。足利義昭（あしかがよしあき、1537-1597、享年61）：室町幕府第15代将軍で、信長包囲網に関わった。	越山は越後から関東へ出兵する謙信の動きです。小田原城攻めは後北条氏の本拠を攻めた関東出兵です。川中島の戦いは信濃国で武田信玄と争った合戦です。京都を目指す政治・軍事行動なら上洛で、謙信の場合は晩年の未完の計画として整理します。	上洛、信長包囲網、手取川の戦い、北陸進出、足利義昭、織田信長、室町幕府滅亡、春日山城、1578年、戦国末期の畿内情勢
上杉謙信	24	謙信晩年に北陸方面で上杉軍と対立した、尾張出身の戦国大名は誰か？	戦国時代・尾張から畿内と北陸・織田政権	織田信長（おだのぶなが）は、尾張国（おわりのくに、愛知県西部）出身の戦国大名です。1560年の桶狭間の戦いで今川義元を破り、1568年に足利義昭を奉じて上洛しました。その後、畿内を掌握し、1573年に義昭を追放して室町幕府を事実上滅ぼします。晩年の上杉謙信とは北陸方面で対立し、1577年の手取川の戦いでは上杉軍が織田軍を破ったとされます。謙信の晩年を理解するには、信玄だけでなく信長との対立も重要です。	尾張出身、桶狭間、足利義昭を奉じて上洛、室町幕府滅亡、北陸で上杉謙信と対立、という語句があれば、正解は織田信長です。謙信晩年の相手として判断します。	織田信長（おだのぶなが、1534-1582、享年49）：畿内支配を進め、北陸方面で上杉謙信と対立した。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：晩年に北陸へ進出し、織田勢と争った。柴田勝家（しばたかついえ、1522?-1583、満61歳前後）：織田家重臣で、北陸方面軍を率い上杉勢と対した。	武田信玄は甲斐国の大名で、川中島で謙信と争った人物です。北条氏康は相模小田原を本拠に関東で謙信と対立しました。今川義元は駿河・遠江の大名で、桶狭間で信長に敗れました。謙信の相手は、信濃なら信玄、関東なら北条氏康、北陸晩年なら信長です。	織田信長、桶狭間の戦い、足利義昭、上洛、室町幕府滅亡、手取川の戦い、柴田勝家、北陸方面軍、安土城、本能寺の変

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	25	1577年、北陸で上杉軍が織田軍を破ったとされる戦いは何か？	戦国時代・加賀国（石川県）・北陸戦国史	手取川の戦い（てどりがわのたたかい）は、1577年、北陸方面で上杉謙信の軍と織田信長方の軍が戦い、上杉軍が勝利したとされる合戦です。舞台は加賀国（かがのくに）、現在の石川県の手取川周辺とされます。謙信は能登国（ののくに）の七尾城（ななおじょう）を攻略した後、北陸へ進む織田勢と衝突しました。信長方では柴田勝家（しばたかついえ）らが関係します。謙信は翌1578年に急死したため、北陸から京都へ進む構想は実現しませんでした。	1577年、北陸、加賀国、上杉軍対織田軍、七尾城攻略後、柴田勝家という語句があれば、正解は手取川の戦いです。川中島は武田信玄との戦い、手取川は織田信長勢力との戦いとして区別します。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：北陸へ進出し、手取川で織田勢を破ったとされる。織田信長（おだのぶなが、1534-1582、享年49）：北陸方面へ勢力を伸ばし、上杉軍と対立した。柴田勝家（しばたかついえ、1522?-1583、満61歳前後）：織田家重臣で、北陸方面軍として上杉軍と対した。	川中島の戦いは上杉謙信と武田信玄が信濃国で争った戦いです。長篠の戦いは1575年、織田・徳川連合軍が武田勝頼を破った戦いです。山崎の戦いは1582年、羽柴秀吉が明智光秀を破った戦いです。手取川は北陸・上杉対織田・1577年で覚えます。	手取川の戦い、1577年、加賀国、石川県、七尾城、能登国、織田信長、柴田勝家、北陸戦国史、上洛計画
上杉謙信	26	謙信晩年の北陸進出で、七尾城攻略と結びつく国はどこか？	戦国時代・能登国（石川県）・北陸戦国史	能登国（ののくに）は現在の石川県北部、能登半島にあたる地域です。上杉謙信（うえずぎけんしん）は晩年、越後国（えちごのくに）から越中国（えっちゅうのくに）・能登国方面へ進出し、能登畠山氏（のとはたけやまし）の拠点である七尾城（ななおじょう）を攻略しました。その後、北陸へ進む織田信長（おだのぶなが）方と手取川（てどりがわ）で衝突したとされます。能登は、謙信の晩年の軍事行動と信長包囲網をつなぐ重要地域です。	上杉謙信の晩年、北陸進出、七尾城、能登畠山氏、石川県北部という語句が出たら、正解は能登国です。川中島の信濃国ではなく、手取川につながる北陸方面の地域として判断します。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：晩年に能登へ進出し、七尾城攻略後に織田勢と対立した。畠山義隆（はたけやまよし）が、1556-1576、享年21）：能登畠山氏の当主で、七尾城をめぐる内紛期の人物。織田信長（おだのぶなが、1534-1582、享年49）：北陸へ勢力を伸ばし、上杉軍と対立した。	加賀国（かがのくに）は現在の石川県南部で、手取川の戦いの舞台とされる地域です。越中国は現在の富山県で、謙信の北陸進出の通路となりました。信濃国は現在の長野県で、川中島の戦いの舞台です。能登国は七尾城、加賀国は手取川、信濃国は川中島で分けます。	能登国、石川県、能登半島、七尾城、能登畠山氏、手取川の戦い、加賀国、越中国、北陸道、信長包囲網
上杉謙信	27	能登畠山氏の拠点で、謙信の能登攻略と関係する山城はどこか？	戦国時代・石川県七尾市・城郭史	七尾城（ななおじょう）は、現在の石川県七尾市にあった能登畠山氏（のとはたけやまし）の山城です。能登国の中心的拠点で、戦国期には畠山氏の内紛や家臣団の対立によって不安定になりました。上杉謙信は1577年に能登へ進出し、七尾城を攻略しました。その直後、北陸へ進んできた織田信長方の軍と手取川の戦いで衝突したとされます。観光地史としては、能登半島・七尾市・戦国山城を結びつけて覚えるとう効です。	能登畠山氏、石川県七尾市、上杉謙信の能登攻略、1577年、山城という語句があれば、正解は七尾城です。小田原城や春日山城ではなく、能登国の拠点として判断します。	上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：1577年に七尾城を攻略し、北陸で織田勢と対立した。畠山義綱（はたけやまよし）が、1536?-1593?、満57歳前後）：能登畠山氏の当主で、家臣団との対立により能登支配が揺らいだ。長統連（ちょうつぐつら、1517-1577、享年61）：能登畠山氏の重臣で、七尾城をめぐる上杉軍との戦いに関わった。	春日山城は上杉謙信の本拠で、新潟県上越市にあります。小田原城は後北条氏の本拠で、神奈川県小田原市にあります。躰躰ヶ崎館（つつじがさきやかた）は武田信玄の本拠で、山梨県甲府市にあります。七尾城は能登畠山氏、春日山城は上杉謙信、小田原城は後北条氏で整理します。	七尾城、能登畠山氏、石川県七尾市、能登国、手取川の戦い、戦国山城、日本五大山城、上杉謙信の北陸進出、和倉温泉、能登観光史
上杉謙信	28	謙信死後、上杉景勝と上杉景虎が後継を争った内乱は何か？	戦国時代・越後国（新潟県）・家督争い	御館の乱（おたてのらん）は、1578年に上杉謙信が急死した後、養子の上杉景勝（うえずぎかげかつ）と上杉景虎（うえずぎかげとら）が後継者の座を争った内乱です。景勝は長尾政景（ながおまさかげ）の子で、謙信の甥にあたります。一方、景虎は後北条氏出身で、謙信の養子となった人物です。1578年から1579年にかけて争い、景勝が勝利して上杉家を継ぎました。謙信の死後、強大な上杉家が内部抗争で弱体化した点も重要です。	上杉謙信の死後、上杉景勝、上杉景虎、養子同士の後継争い、1578～1579年という語句があれば、正解は御館の乱です。「長尾景虎＝謙信本人」と「上杉景虎＝養子」を混同しないことが判断軸です。	上杉景勝（うえずぎかげかつ、1556-1623、享年69）：御館の乱に勝利し、謙信後の上杉家を継いだ。上杉景虎（うえずぎかげとら、1554-1579、享年26）：北条氏出身の謙信養子で、御館の乱で景勝と争い敗れた。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：後継を明確にしないまま急死し、御館の乱の原因を残した。	応仁の乱は1467年に始まった室町幕府の内乱で、戦国時代のきっかけとされます。観応の擾乱（かんのうのじょうらん）は南北朝期の足利尊氏・直義兄弟の対立です。本能寺の変は1582年に明智光秀が織田信長を討った事件です。上杉家の後継争いなら御館の乱です。	御館の乱、1578年、1579年、上杉景勝、上杉景虎、北条氏、武田勝頼、春日山城、越後国、家督争い、戦国大名家の内紛

年号	番号	質問	テーマ	トピックの解説300文字	正解の解説	トピック関連の人物3名	正解以外の選択肢の解説	関連テーマ
上杉謙信	29	御館の乱に勝利し、謙信後の上杉家を継いだ養子は誰か？	戦国時代から江戸時代・越後から会津・米沢・上杉家	上杉景勝（うえずぎかげかつ）は、上杉謙信の養子で、謙信死後の御館の乱（おたてのらん）に勝利して上杉家を継いだ人物です。父は長尾政景（ながおまさかげ）、母は謙信の姉・仙桃院（せんとういん）で、謙信の甥にあたります。豊臣秀吉に従い、のち会津120万石の大名となりました。関ヶ原の戦いでは徳川家康と対立し、戦後は米沢30万石へ減封されます。謙信から米沢藩上杉家へつながる橋渡しの人物です。	御館の乱の勝者、謙信の養子、会津120万石、関ヶ原後に米沢へ減封という語句があれば、正解は上杉景勝です。上杉景虎は御館の乱で敗れた側なので区別します。	上杉景勝（うえずぎかげかつ、1556-1623、享年69）：御館の乱に勝利し、上杉家を継いだ。直江兼続（なおえかねつぐ、1560-1620、満60歳）：景勝の重臣で、政治・軍事を支えた。上杉謙信（うえずぎけんしん、1530-1578、享年49）：景勝の養父で、越後上杉家の名声を築いた。	上杉景虎は北条氏出身の謙信養子で、御館の乱で景勝に敗れました。武田勝頼は武田信玄の子で、長篠の戦い後に武田氏滅亡へ向かった人物です。北条氏政は後北条氏の当主で、秀吉の小田原征伐で敗れました。御館の乱の勝者は上杉景勝です。	上杉景勝、御館の乱、直江兼続、会津120万石、米沢藩、関ヶ原の戦い、徳川家康、豊臣秀吉、直江状（なおえじょう）、上杉家の移封
上杉謙信	30	謙信の家が景勝を経て江戸時代に続き、上杉鷹山とも結びつく藩は何か？	江戸時代・出羽国米沢（山形県）・藩政史	米沢藩上杉家（よねざわはんうえずぎけ）は、上杉謙信の家が上杉景勝を経て江戸時代に続いた大名家です。景勝は豊臣政権下で会津120万石を領しましたが、関ヶ原の戦い後、徳川家康により出羽国米沢30万石へ減封されました。その後、米沢藩は財政難に苦しましますが、江戸中期の上杉鷹山（うえずぎようざん）が倭約・産業振興などの藩政改革を行いました。謙信の戦国史から、江戸時代の名君・鷹山まで一本の家系でつながります。	上杉謙信の家、上杉景勝、関ヶ原後の減封、出羽国米沢、上杉鷹山の藩政改革という語句があれば、正解は米沢藩上杉家です。越後の戦国大名上杉氏が江戸時代に山形県の米沢へ続く流れとして判断します。	上杉景勝（うえずぎかげかつ、1556-1623、享年69）：関ヶ原後に米沢へ減封され、米沢藩上杉家の基礎を作った。直江兼続（なおえかねつぐ、1560-1620、満60歳）：景勝の重臣で、米沢移封後の藩政にも関わった。上杉鷹山（うえずぎようざん、1751-1822、享年72）：米沢藩主として財政再建と産業振興を進めた名君。	会津藩は上杉景勝が一時領した地ですが、江戸時代後期には会津松平家が有名です。仙台藩は伊達政宗（だてまさむね）の伊達家の藩です。加賀藩は前田利家（まえだとしえ）以来の前田家の藩です。上杉謙信から景勝、鷹山へ続くのは米沢藩上杉家です。	米沢藩、上杉景勝、直江兼続、上杉鷹山、出羽国、山形県、会津120万石、関ヶ原の戦い、減封、藩政改革、殖産興業